

2015年4月28日

放送倫理・番組向上機構（BPO）

放送倫理検証委員会 御中

株式会社テレビ朝日

放送倫理検証委員会決定

『報道ステーション』『川内原発報道』に関する意見への対応と取り組み

2015年2月9日、貴委員会からの決定を受けまして、弊社が行ってきた取り組みについてご報告いたします。

1. 委員会決定の放送対応

(1) 2015年2月9日、夕方の報道番組「スーパーJチャンネル」で委員会決定が公表されたニュースを放送しました。

『報道ステーション』は去年9月10日、川内原発が新たな規制基準を満たすと原子力規制委員会が正式に決定したというニュースを伝えました。その際、規制委員会の記者会見について質問に対する回答を取り違え、また、田中俊一委員長の回答姿勢に誤解を招く編集をし、放送しました。この問題についてBPOの放送倫理検証委員会は『“故意”や“恣意的・作画的な編集”は確認されない』ものの、『客観性と正確性・公正性を欠いた放送倫理違反』と指摘しました。」という委員会決定の主旨と、「今回の決定の内容を真摯に受け止め、今後も正確で公平・公正な報道に努めてまいります。」という弊社のコメントを伝えました。

(2) 同日の「報道ステーション」では約6分間、委員会決定のニュースを放送しました。

当該放送における間違いと不適切な編集の具体的内容、それに対する委員会決定の主旨、弊社のコメントを放送し、その上で改めて視聴者へのお詫びと再発防止の意識を徹底することを伝えました。

(3) 2月15日の「はい！テレビ朝日です」（日曜朝5時00分～5時20分）でも委員会決定の主旨と弊社コメントを放送しました。

2. 委員会決定内容の周知徹底

- ・委員会決定公表直後、決定文を全報道局員と「報道ステーション」スタッフ、その他関係部署にメールで配布し、それぞれが内容を確認しました。
- ・報道局では各部署のデスクらが出席する夕方の打ち合わせでニュースセンター長から経緯を伝え、決定の内容を再確認しました。
- ・「報道ステーション」では公表当日の放送後、反省会で経緯の説明と意見書の内容を全スタッフに説明し、再発防止の実行を再確認しました。
- ・報道局の部長、担当部長、各番組のチーフプロデューサーが出席する会議で意見書の内容を再確認し、各部署・各番組で共有するよう徹底しました。
- ・報道局関係者・各番組プロデューサーが出席する会議、また、報道局関係者・各番組・編成・営業・スポーツ・系列局・番組審査室・広報・法務担当者が出席する会議で委員会決定の内容を報告し、各部署でも共有するよう徹底しました。

3. 放送番組審議会への報告

2015年2月20日開催の第557回テレビ朝日放送番組審議会において弊社・吉田社長より審議会委員に対し、2014年9月10日「報道ステーション」で放送した川内原発を巡るニュースでの事実誤認と不適切な編集について放送倫理違反があったとするBPO決定を受けたことを報告しました。同時に、これらのミスに故意や恣意的・作為的な編集はなかったと確認され、放送後の弊社の対応が、迅速・的確・適切であったという意見を頂いたことも報告しました。

テレビ朝日としては、BPOのご指摘を真摯に受け止め、再発防止に努めていくという決意を述べました。

4. 委員会決定前の取り組み

(1) 問題の周知徹底

今回の不適切な放送について、以下のような機会を設けて幹部やスタッフ・社員への周知に努めました。

- ・2014年9月12日 放送終了後、「報道ステーション」では番組の緊急部会を開き、問題となった放送についてスタッフに周知。
- ・9月16日 放送後、最初の報道局定例部長会議で局長から「今回の問題を極めて深刻に受け止め、全スタッフを対象に勉強会を実施するよう」指示。
- ・9月17日 定例局長会議冒頭で早河会長兼CEOから、「誠に恥ずべき報道で、番組関係者全員に猛省を促したい」と関係部局に厳重注意。
- ・9月18日 報道局センター長会議で経過を報告。再発防止に向けた作業手順などを協議。

- ・9月18日 報道局プロデューサー会議で、お詫び放送までの経緯を全プロデューサーに説明。局長から注意喚起。
- ・9月19日 ANN系列部長会でニュースセンター長から各局報道部長に報告、謝罪。
- ・9月24日 臨時報道局会を開き、全報道局員に経緯を説明、再発防止に向け注意喚起。

(2) 放送番組審議会への報告

9月19日開催の第553回、10月9日開催の第554回のテレビ朝日放送番組審議会において、当該放送について局側から報告するとともに、各委員から「視聴者の信頼を損なうものだったと思う。きちんと検証してほしい。」などとの意見を受けました。審議会については、10月12日、11月2日の「はい！テレビ朝日です」で取り上げました。

(3) 再発防止策の策定

再発防止策の策定に向けて、2014年10月には総合編成局長をトップとする『「報ステ」再発防止・検証プロジェクトチーム』を立ち上げ、「分業に伴う再発防止策」と「チェック体制の強化」を柱とした再発防止策を策定しました。再発防止策は策定後すぐに実施に移されました。

再発防止策は、当社が去年10月に貴委員会に提出した報告書に盛り込み、貴委員会の決定書P12-13に主な点として以下の4つが列挙されました。

- i) 文字起こし担当者が編集立ち会い
- ii) 「サブニュースデスク」を新設
- iii) 「情報統括ディレクター」も新設
- iv) VTR原稿のチェック

上記再発防止策については、委員会決定後の2015年3月から4月にかけて、改めて実施状況を確認しています（本報告書P6参照）。

(4) 再発防止勉強会

①「報道ステーション」勉強会

<実施状況>

- ・2014年9月12日 不適切な編集の発生と放送によるお詫びと訂正対応に関する勉強会
- ・9月30日 再発防止策について勉強会
- ・10月22日 再発防止策の説明

<出席者>

報道ステーションの全ディレクター、全デスクらが出席

<内容>

放送したVTRや、ナレーション原稿、その元になった原子力規制委員会会見の書き起こしメモなどを使用しながら、他部署から上がった意見なども伝えて、再度、問題点について話し合い、再発防止の意識を再確認しました。

スタッフからは、「今回の問題では会見の雰囲気伝えることについて出稿部とのコミュニケーションが不足していたことが大きかったと思う。」「もっと番組スタッフから記者に直接のやり取りをもちかけないといけないと思う。」など、番組と出稿部や編集班等、他の部署とのコミュニケーションの重要性を指摘する声が相次ぎました。その上で連絡を頻繁に行う具体的な方法等についても議論されました。

② 報道局勉強会

<実施状況>

2014年10月15日～28日の間に、計15回

<出席者>

計約800名（出稿部〈政治部・経済部・社会部・外報部〉、他の報道・情報番組、編集班、取材部、クロスメディアセンターなどの報道局社員、外部スタッフ）

<内容>

それぞれの番組や部署でも同様のミスを起こさないよう意識を高めるため、放送したVTR、ナレーション原稿、原子力規制委員会会見の書き起こしメモを使って、不適切編集に至った経緯と「報道ステーション」の再発防止策を説明しました。

出席したスタッフからは「書き起こしの部分で、はしょられているところを見て身につまされるところもあり、相当注意深い目で見ていかないといけないと思った」「追い込まれていると、構成を立てるディレクターはよいコメントを信じこみやすい気持ちになりがちだが、疑ってかかる眼を持たないと間違えるところがあると思う」「当日放送するニュースとわかっていて、リアルタイムで会見を聞いていなかったのも問題だと思う。そのことによってかなりミスは防げたと思う」「取材した人がVTRの上がりをチェックするのは基本中の基本だ」など様々な意見が出され、議論が交わされました。

③ 他番組や他部署での再発防止策の策定

2014年10月、報道局内各番組・各部署において、今回「報道ステーション」でまとめた再発防止策を踏まえ、分業体制の見直しとチェック体制の強化という観点から、それぞれの部署に適したミス防止策と危機管理対応策を検討しました。

「スーパーJチャンネル」「ポータル」「ANN昼ニュース」「ANNスーパーJチャンネル」「グッド！モーニング」「モーニングバード！」「ワイド！スクランブル」「報道ステーションSUNDAY」「サンデー！スクランブル」の各番組と、政治・経済・社会・外報の各出稿部、映像編集班がそれぞれ対策を作成しました。

5. 委員会決定後の取り組み

(1) BPO 検証委委員を招いての勉強会開催

【日程】2015年3月18日

【場所】テレビ朝日本社

【出席者】BPO 放送倫理検証委員会・鈴木嘉一委員、藤田真文委員

「報道ステーション」全スタッフと、報道局スタッフ、報道局外の編成部、広報部等の社員など約130名。

【内容】

① 今回の問題の振り返り・再発防止策の再確認

② 鈴木委員と藤田委員の講演

・鈴木委員 「ミスが発生するまでに4つの分岐点があったと思う。1. 会見にもっと注意を払うべきだった、2. 会見のスルー伝送を見ていた人たちが、特筆すべきポイントがあればデスクに上げるべきだった、3. VTR 原稿のチェックの仕方が不十分だった、会見を（文字に）起こした人たちにも原稿がわたっていれば防げたかもしれない、4. 起こしにあたった人たちが編集に入っていれば、ミスに気付いたかもしれない。」

・藤田委員 「1. 放送後の対応の問題：ミスが当日の反省会でも全体に共有されなかった。明らかな間違いは当然共有すべきだった。ミス発生時には正常性バイアスが働いてしまうリスクがある。2. 間違いをどう評価するか：今回は誤報であって、捏造ではない。故意が働いていたわけでもない。そういうことをきっちり言える評価の基準を持つておくべき。」

③ パネルディスカッション

<テーマ>

「BPO の意見を踏まえ、より良い報道・番組作りに向けて」

<参加者>

鈴木委員、藤田委員、「報道ステーション」プロデューサー・ディレクター、社会部記者、映像編集班デスク、情報番組チーフディレクターの計7名

(2) 上記勉強会に関する放送

4月26日（日）の「はい！テレビ朝日です」で『報道ステーション』で去年9月10日に放送した九州電力・川内原発を巡るニュースについて、BPO=放送倫理・番組向上機構が『放送倫理違反』と判断した問題で、テレビ朝日では、BPO の委員を招いて再発防止とより良い報道を目指すための勉強会を開催しました。」など、3月18日に実施した勉強会の模様を約2分間のVTRにまとめて放送しました。

(3) 再発防止策実施状況の確認

再発防止策策定から約5カ月を経た2015年3月から4月にかけて、「報道ステーション」と他番組・他部署は実施状況等を検証し、必要に応じて内容を調整・改訂するなどの作業を行いました。

① 「報道ステーション」

「報道ステーション」では、分業に伴う問題の再発防止策、チェック体制の強化を大きな2本の柱としてミスの再発防止に努めてきました。新設した「サブニュースデスク」は当日担当でないニュースデスクが担当し、主に危機管理的観点から作業が的確に進められているかチェックしています。また、大きく扱うニュース、慎重な判断が求められるニュース、放送直前に起きたニュースには「情報統括ディレクター」を置いて担当するニュースの内容を客観的に把握し、ディレクターの配置や作業の進行状況をチェックしています。

チェック用の原稿は、途中段階からニュースデスクや関係部署に回し、作成途中から関係者が関与できるようにし、間違いだけでなく、構成の適切さや公平・公正さ、書きぶりなども注意して確認しています。

会見などを音声で放送に使用する際は、書き起こしを担当したディレクターが原則的に編集に立ち会い、VTR原稿を確認して音声の使用に不適切な点がないかチーフ格のディレクターに報告しています。作成する書き起こしメモも、全体の流れや特筆すべきやり取り等、また誤解が生じないよう省略の仕方についても注記することを徹底しています。

② 他番組・他部署

他番組や他部署は、分業体制から生じうる問題点への対策を実行に移し、チェック体制の刷新を図って日々の放送に取り組んできました。この期間に、多くの番組・部署がそれぞれの放送時間帯や態勢に応じて、より実務に適合する形に、5カ月前に作成した再発防止策を調整・改訂するなどしています。その上で、全スタッフに徹底を図り、危機管理に対する意識を高めています。

また、4月の改編期で新スタッフが増える番組・部署も多く、日ごろから上記の再発防止策に沿って業務を行うよう励行すると共に、取材の基本に関する勉強会を行うなどして、ミスの防止に努めています。

6. 終わりに

意見書では「報道番組に対する視聴者の信頼は、(日本民間放送連盟とNHKが定めた放送倫理基本綱領の)規定を遵守するからこそ成り立っている」と、「報道における事実の重み」について改めて注意喚起して頂きました。今回の「竜巻と火山の質問の取り違え」、更にはそのミスを放置したこと、また、原子力規制委員会委員長の会見について「実際の質疑応答とは異なる内容を伝えた」ことは、結果的には事実を軽視したものと云わざるを得

ず、視聴者の信頼を大きく損なうミスであったことを痛感しています。

ミスの原因を追究していく中で浮き彫りになった、分業に伴う問題と、機能していなかったチェック体制は、当該番組である「報道ステーション」だけでなく、他の番組・部署にも共通する課題であり、放送に関わる全スタッフが現在も試行錯誤を繰り返しながら、危機管理意識を高め、ミスの発生を最小限に食い止めるべく邁進しているところです。

今回、「『萎縮』ではなく『前進』を」という勇気づけられる言葉も頂きました。意見書にあるように、「失敗から学んだ教訓を血肉化して」前進し、視聴者の信頼を回復していきたいと考えています。

以上